

# こんなとき どうしたら…?

## Dr. からのアドバイス



日本の死因の第1位はがん、中でも肺がんが一番多い病気です。朝起きたとき、何気なく出した痰に血が混じってはとっしませんか。

### 血痰（痰に血が混じる）：朝起きたら喉が むずかゆくて咳とともに血の混じった痰 が出ました。肺がんでしょうか？

**Q** どこから出血したのでしょうか？

**A** 血を吐いた場合に、痰とともに気管支からでたものを血痰、量が多い場合を喀血と呼びます。一方、食べ物を吐くように胃や食道からでたものを吐血と呼びます。血痰の場合、大抵咳をしたときに痰と一緒にできます。また、喉がごろごろすることがあります。いずれにしても痰に血が混じることは尋常なことではありません。最も怖いのは肺がんですが、昔は肺結核で咯血して亡くなる方がいらっしやいました。気管支拡張症や慢性気管支炎、肺炎など肺の中で「ばい菌」が広がったときにも血痰がみられます。また心筋梗塞で抗凝固剤（血を固まりにくくする薬）を飲んでいる人は、感冒をひいたときに血痰がでることがあります。

**Q** どの病院にかかったら？

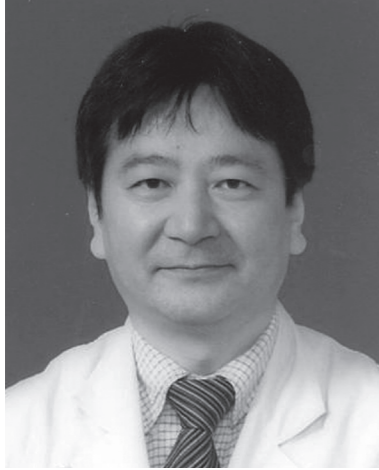
**A** 血痰の原因を調べるには、①痰検査、②血液検査、③レントゲン・CT検査を行います。そこで異常があれば気管支鏡と呼ばれる内視鏡検査が必要になります。これらの検査ができるのは「呼吸器科」や「呼吸器内科」のある総合病院ですが、いきなり受診するのではなく、まず「かかりつけ医」に相談し、いまままでに罹った病気や常用している薬、普段の検査結果について紹介状に記入してもらい、紹介受診されることをお勧めします。コップ一杯、どんぶり一杯の喀血が続く時は窒息の危険性があるため、救急車で救急病院に搬送してもらいましょう。

**Q** 治療は？

**A** 血痰の原因により異なります。止血剤で血痰を抑えながら原因ごとの治療をします。肺がんの場合、すでに進行していて手術が不可能な場合が多く、抗がん剤や放射線治療を組み合わせてがんを抑えることにより症状を軽減します。気管支拡張症や一部の気管支炎ではマクロライドと呼ばれる抗生物質と去痰薬を併用することにより血痰を抑えることができます。これらの治療でも喀血を繰り返す方には、手術や気管支動脈塞栓術と呼ばれる血管カテーテルを用いた処置をします。

**Q** 予防法はありますか？

**A** 喫煙者は、今すぐタバコをやめましょう。一日一箱吸うと三十年で肺がんの危険が倍になります。タバコを吸っていると、レントゲンで肺がんが見つげにくく、手術の合併症が多く、抗がん剤が効きにくいなど不利になります。また、感冒やインフルエンザをきっかけに血痰が悪化することがありますので冬季や季節の変わり目には感冒に気を付け、規則正しい生活を送ってください。お年寄りには、毎年インフルエンザワクチンを受けることをお勧めします。



岐阜市民病院  
呼吸器科・呼吸器腫瘍内科部長

**澤 祥幸氏**

(さわ としゆき)  
昭和59年岐阜大学医学部卒。大阪府立羽曳野病院（現呼吸器アレルギーセンター）を経て岐阜市民病院呼吸器科部長。専門は肺がんの集学的治療。日本初の「がん薬物療法専門医」  
500-8513 岐阜市鹿島町7-1  
Tel:058-251-1101  
Fax:058-252-1335  
<http://www.chest-disease.com/>